

# 授業づくりワークショップ報告

本年度のわくわく授業づくりワークショップは Zoom を使ったオンライン形式で行っています。

10月1日(木)のワークショップには、平日にも関わらず、全国から70名を超えるご参加をいただき、ありがとうございました。ゲストに元教科調査官(現在は高松大学教授、香川大学名誉教授)の七條正典先生をお招きし、道徳科の授業づくりについて、本校の実践を基に提案させていただきました。

以下に、概要と参加者の感想を掲載しています。ご一読いただければ幸いです。

## 道徳科の授業づくりについて

七條正典先生より、本校の実践を交えながら「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた道徳科の授業づくり」というテーマでお話をいただきました。

道徳科の授業づくり、第1のポイントは、「道徳科の特質を生かす」ことです。道徳科の特質というのは、①道徳的価値についての理解を基に、それを②自分自身との関わりにおいて捉え(主体的)、③多面的・多角的に考える(対話的)ことを通して、④自己の生き方について考えを深める学習(深い学び)を行うというものです。この4つを踏まえて授業づくりを行うことが重要だということです。そして、第2のポイントは、「考え、議論する」ことを重視した授業であることです。そのためにも、筆談で対話を行い、自分の考えが納得するものになっていく過程を視覚的に捉えられるようにしたり、黒板の対立軸上にネーム磁石を置き、多様な立場が表出されるようにしたりする等「多様で効果的な指導方法」を活用して授業づくりを工夫することが重要だというお話をいただきました。



香川県  
小学校教員

教科書の教材文を読み、授業で考えたい問いを1週間で考えてくるという家庭学習がとても素敵だと思いました。ユニバーサルデザインの「筆談シート」、早速使ってみたいです。また、学校生活やこれからの人生の中で子供たちが大切にしていきたいものを見付けられるように、道徳的価値について考え、多面的・多角的に捉えられるような授業をしていきたいと思いました。



島根県  
小学校教員

道徳科の授業で、最後に自分事として考えさせることが難しいです。しかし、今回の研修を通して、教材研究をするときに一つの視点ではなく、様々な視点で考えていくことや、発問の仕方等の工夫が重要なのだと感じました。明日からの授業で実践していきたいと思います。



香川県  
大学生

道徳科の授業をつくるのは難しいと感じていましたが、今日のお話を聞いて、子供たちの心に種をまくような授業をつくりたいと思えました。

また、「筆談シート」や「振り返りの4観点」がとても面白いと思いました。将来の自分の授業に生かしていきたいと思いました。



徳島県  
NPO 法人職員

道徳科の授業の意味は、その後の学校生活や家庭生活で、どのように生きていくかを考えることだと感じました。また、子供たちの心の動きを生み出せるような問いかけもできるように考えていきたいなと思いました。そして、子供たちに生まれる小さな変化に目を向けていきたいなと思いました。